

猛暑

2025 年 6 月 29 日から 7 月 26 日

野中健司



6月29日14時ころ

公方様の森のなかではカブトムシやクワガタムシを探す親子がいた



6月29日13時ごろ

蓮田を見渡す藤棚の下のベンチでは暑さを避けて蓮の花見を楽しんでいる人がいた

大賀ハス田では既に蓮の花が見ごろをむかえていたが、一日目の見事な花はすでに花弁を閉じていた



7月4日10時ごろ この時間の花は姿よし



7月4日10時ごろ 花見客多し



7月4日 10時30分ころ カメラマンは工夫に余念がない



7月4日10時ごろ 1日目の蓮華 きりりと姿よし



7月4日10時ごろ 2日目の花の花芯



7月13日15時15分ごろ 春草席、大学生のオリエンテーリングのチェックポイント(電子タグ)

猛ダッシュに汗が飛び散る

自分には無理！と、青年の元気いっぱいの活力に、ただ憧れる

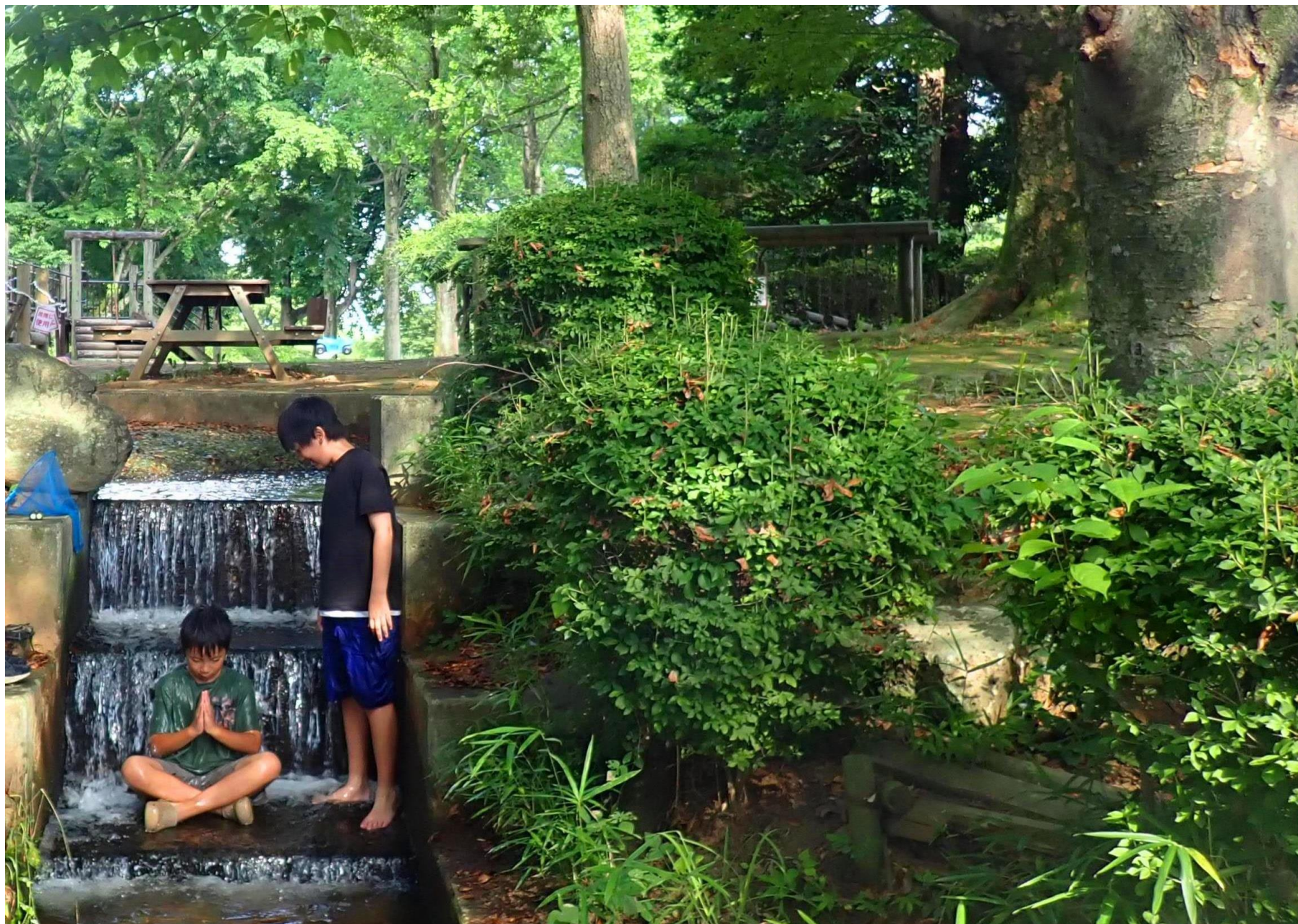


7月13日13時30分ごろ 御所の森の山百合が見ごろとなっていた

どろんこクラブの育成の成果である



7月13日15時40分ごろ 「柳井の泉」 今年整備したビオトープ活動、水生生物捕獲風景



7月13日15時40分ごろ 「明神の滝」で、少年は滝行。なかなか様になっている。



7月19日11時ごろ ツツジ山のオニユリが満開であった。

少年の頃、どこの庭にも夏にはオニユリが咲いていた。オニユリは夏の代名詞であった



7月19日11時ごろ 東の空に飛行機雲が伸び、夏空を引き立てていた。



7月26日 12時ごろ アジサイの剪定作業を終えて、ぐったり



7月26日正午ごろ 中山台のサルスベリ

百日紅と書いてサルスベリと読む

百日紅は花に由来した名である

朝鮮の伝説によると

水難防止のために毎年娘を竜神にささげるのだが

ある年長者の娘がその選に入り竜神の来るのを待っていると

偶然にも、その国の王子が来てこの話を聞き

王子は竜神を征服し娘と相愛の仲となった。

しかし

王子は、他に行くべき使命があったので

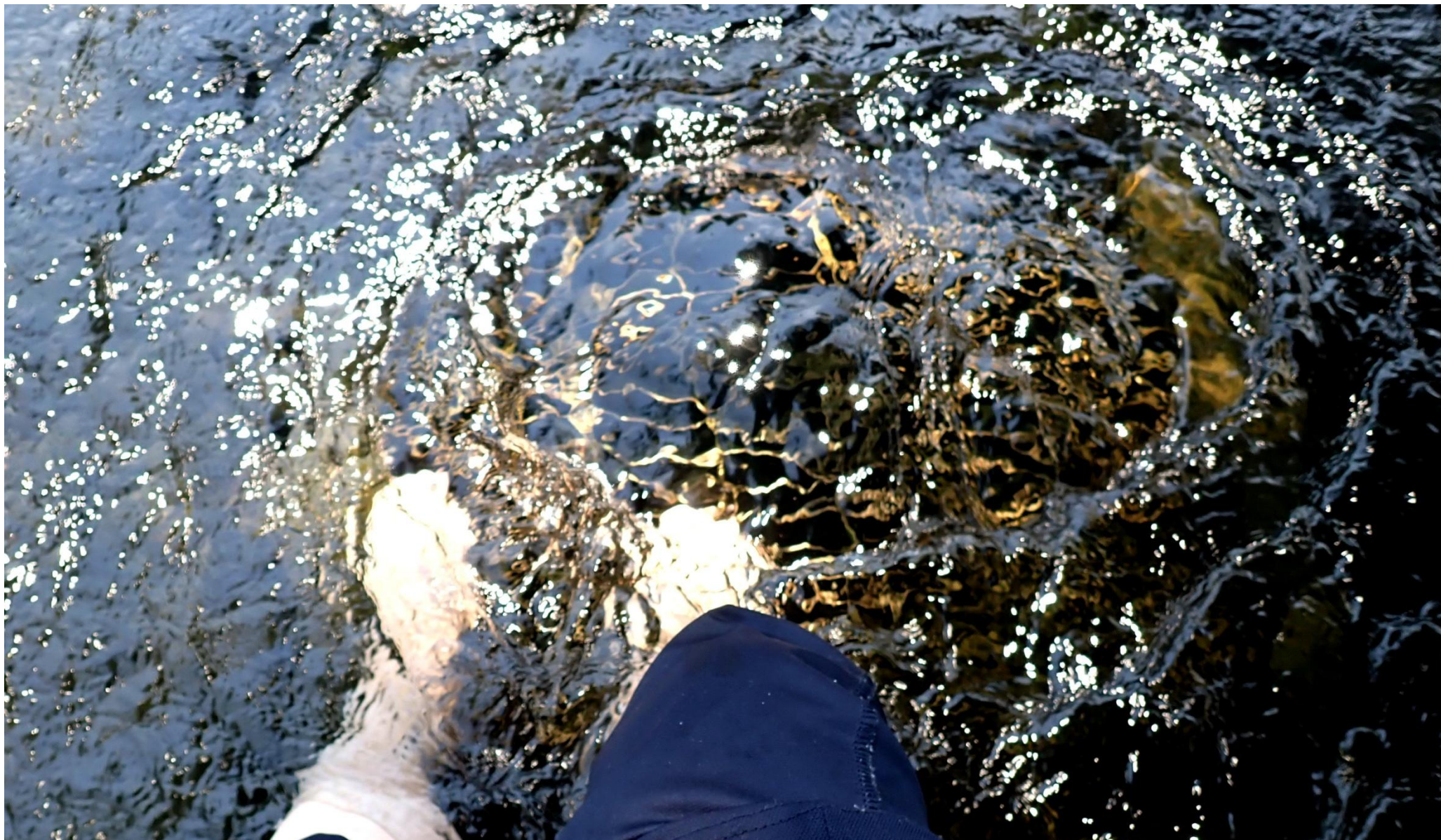
百日後を約して去った。

娘はこの百日を待ちきれず死んだので、百日目に現れた王子は非常に悲しんだ。

そこで遺体を埋めた所に生えたのが百日紅で

百日の間花が咲き続けるのだと言う。

上原敬二著「樹木大図鑑」より



7月26日正午頃 中山台の泉に足を浸す。

猛暑の暑さに、ボーっとした頭の芯からスッキリする。天国である